

## Manual ■ かえるのがっしょう

「かえるのがっしょう」は、教科書でも取り上げられているカノン（輪唱）の教材です。この曲は、もともとドイツ民謡ですが、岡本敏明により日本語で歌いやすく訳されたものが一般的によく知られています。親しみやすく、簡単なメロディーですぐ歌えてしまうため、技術的な指導を抜きに、‘楽しい’だけで終わってしまいがちな教材です。しかし、この曲を技術的な面からもしっかり指導すれば、美しい響きのカノンを子ども達に体験させることができます。

### Step 1

まずは全員で練習する

#### 【ユニゾン】

- ・音が上行するときは、音程が下がりがちになるので明るく、積極的に。
- ・音が下行するときも、音程が下がりがちになるので慎重に、お腹で支えて歌う。
- ・この曲は音が順次進行している。隣同士の音というのは、音程が不安定になりやすい傾向があるので、よく子ども達の歌声を聴いて指摘してあげること。

☞ユニゾン：全員で同じメロディーを歌うこと（斉唱）

☞順次進行：ある音が隣の音へ進行すること。

### Step 2

2つに分かれて歌う

#### 【2声カノン】

- ・パート同士が同じピッチで歌い合えるように、お互いのパートをよく聴く。
- ・後から加わるパートは前のパートのピッチをよく聴いて、その響きに加わる。従って、始めに歌いだすパートは、正確なピッチで歌い始めないといけないのでとても重要。
- ・テンポがずれないように意識する。

☞カノン：同じメロディーをずらして歌うこと（輪唱）

☞ピッチ：音高（音の高さ）

### Step 3

4つに分かれて歌う

#### 【4声カノン】

- ・**Step 1、2**の注意事項と同じ。

- ★うまくいかないときは、ユニゾンに戻って練習しましょう。
- ★歌い方について指導の際は、ジェスチャーなどを用いると子どもに分かりやすく伝わります。
- ★今回は2声と4声のカノンのみを歌いましたが、3声でも5声でもそれ以上でも、子どもの様子に応じてパートを増やしたり、減らしたりして歌ってみてください。



## 音楽用語

- ユニゾン： 同度の音、あるいは同度の旋律を1声部あるいは数声部と一緒に演奏すること。しかし、女声と男声のように実音がオクターヴ離れているような場合にもいう。合唱の練習ではこの同度の練習は基礎的に大切である。より正確な同度の音高を必要とするのはもちろん、各音の音色の統一がなければ、人声の美しい和声は得られない。
  
- カノン： 厳格な模倣様式による多声楽曲の形式および技法。ある1声部の旋律を他の声部が忠実に模倣し、共に進行していくもの。2声カノン、3声カノンや2重カノン、同度カノン、2度カノン…など、声部の数や音程関係など様々な見地から分類されている。
  
- ピッチ： 音高（音の高さ）
  
- 順次進行： ある音が音階の隣りあった音、すなわち2度上または下へ進行すること。これに対して、ある音が3度以上離れた音に進むことを跳躍進行という。
  
- オスティナート： ある一定の音型を、楽曲全体を通じて、あるいはまとまった楽節全体を通じて、同一声部で、同一音高で、たえずくり返すことをいう。オスティナートは、しばしばバスにあらわれ、それはとくに〈basso ostinato〉〈ground〉と呼ばれる。しかし他の声部に現れることもある。
  
- テクスチュア： 旋律と和声の作曲上の特徴をいう。一般に、ホモフォニーでは、旋律と和声進行を担う伴奏部とが明瞭に区別される。ポリフォニックな書法においてはいくつかの声部が独立して、あるいは互いに模倣しながら動く。このような音楽構造上の特徴をおおまかに言い表すもので、例えば声部数によって決定される響きの「厚み」、ユニゾンやオクターヴでの重複のしかた、演奏に内在する力感の「軽さ」や「重さ」、などが問題となる。

### [出典]

- ・目黒惇編（1983）『新訂合唱事典』 音楽之友社。
- ・浅香淳編（1991）『新訂標準音楽辞典』 音楽之友社。
- ・柴田南雄、遠山一行総監修（1996）『ニューグローブ世界音楽大事典』 講談社。
- ・小西友七、南出康世編集主幹（2006）『ジーニアス英和辞典』第4版 大修館書店

## 参考文献

- ・フォライ・カタリン、セーニ・エルジェーベト共著（1975）『コダーイ・システムとは何か』  
羽仁協子、谷本一之、中川弘一郎共訳、全音楽譜出版社。
- ・カルドシュ・パール（1994）『合唱の育成・合唱の響き』  
羽仁協子監修、菅原恵利訳、全音楽譜出版社。